

<展覧会 開催のお知らせ>

UNPEL GALLERY（アンペルギャラリー）では、あいおいニッセイ同和損保が所蔵する「椿絵 コレクション」の展覧会を毎年開催しております。椿をテーマとした作品は、日本画、油彩画、版画などの絵画に加え、陶磁器、漆器、銅器などの工芸作品と多様で、古くは安土桃山、江戸時代から明治、大正、昭和の近現代まで幅広い時代を網羅しています。あいおいニッセイ同和損保は、毎年コレクションの中からテーマを定め、作品を選定、カレンダーを制作して多くの皆さまに親しんでいただいております。年末に開催されるこの展示では、カレンダーの原画を中心に作品をご覧いただいております。

2024.10

■展覧会概要

タイトル	あいおいニッセイ同和損保椿絵コレクション展示「切磋琢磨—響き合う個性」
会期	2024年11月30日（土）～ 12月22日（日） 11:00 ～ 19:00（月曜定休・最終日 17:00 まで）【入場無料】
会場	UNPEL GALLERY 東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F
展示作家	岸田劉生 中川一政 木村荘八 椿貞雄 【特別出品】五味悌四郎、保立葉菜
展覧会内容	来年の干支は、「乙巳（きのと・み）」となります。乙は草木の若芽が屈曲しながら伸びようとする様を表し、巳は逆に物事が伸長の極みを意味するとともに復活と再生のシンボルでもある蛇にたとえられています。 椿絵コレクションのなかから、そんな年回りに希望と力を与えてくれる画家、岸田劉生と中川一政、椿貞雄、木村荘八を特集展示いたします。 岸田劉生は、大正から昭和にかけて活躍した洋画家です。北方ルネサンスの写実画への傾倒から、やがて中国古典絵画や日本の浮世絵などを研究して独自の日本美観を油彩画で表現して近代画壇をリードしました。その劉生に、21歳で描いた油彩画が評価された中川一政は、劉生に導かれ、真実の自己表現を生涯探究した画家です。97歳で逝去するまで創作意欲は衰えず、油彩画のほか日本画や書など活動は多岐にわたりました。また、椿貞雄や木村荘八もまた、草土社や春陽会で劉生らと互いに切磋琢磨した仲間でもありました。それぞれの芸術的開花を図った作品は、いまも生き生きと観る者に訴えかけてくるようです。 なお今回は、椿絵コレクションの蒐集のきっかけとなった五味悌四郎、2025年カレンダー表紙原画保立葉菜の作品も展示します。
主催	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
企画	UNPEL GALLERY

<ご連絡・お問い合わせ先>

ギャラリーオフィス 11:00～19:00 月曜定休（担当 / 井上・内城）

E-mail / tsubaki@unpel.gallery <https://unpel.gallery/>

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781 * お問い合わせは E-mail にてお願いします

【展示予定作家と作品】

岸田劉生（1891-1929）他 2 点

東京銀座の生まれ。

関東大震災を契機に京都に転居。その後は東洋画に傾倒して南画や中国宋元の院体花鳥画などに倣った日本画制作をよくしました。この絵は細かい岩絵具と細く張りのある線描を主体にして描かれています。

装飾的に色彩を扱うなかにも花びらや枝葉の質感をなんとか表現しようとした跡がうかがえます。



《椿之図》
1923 年 絹本着色

中川一政（1893-1991）他 4 点

東京本郷の生まれ。

油彩画のほか日本画や書、陶芸もよくした文人芸術家として知られました。奔放なものの捉え方が中川の持ち味です。扇面の形もひしゃげていますが、自然の滋味が生き生きと伝わる筆致です。



《早春花》
1975 年頃 紙本着色

木村莊八（1893-1958）1 点

東京日本橋の生まれ。

劉生らと草土社を結成して、写実表現に挑みましたが、一方で挿絵家としてもすぐれ、永井荷風作の連載小説『墨東奇譚』などを手がけています。装飾的な画面の成り行きの中かで写生味を出すために、この絵では、肥瘦のある線描の呼応や筆勢で椿の生き生きとした輝きを表わしています。



《椿図》
1930-40 年代頃 紙本着色

椿貞雄（1896～1957）他 2 点

山形県の生まれ。

岸田劉生に師事。終生、日本的な油絵の創造を追求した画家です。厚手のくりぬき盆の堂々とした材質感が際立ち、水に浮かんだ椿一輪がもとの花木全体の可憐さをも象徴しているようです。椿の一枝に自然の大きさを託した折枝画といえましょう。



《椿花》
1948 年 油彩・キャンバス

【特別出品】**五味悌四郎（1918～2004）《紅白椿》他 2 点**

東京台東の生まれ。

川端画学校を経て、東京藝術大学卒。戦後まもなく日展や一水会に入選。1964 年渡欧、パリのグランシヨミエールに学び、サロン・ボザール展に入選、ル・サロン展で銀賞受賞。1970 年、フランスのアンデパンダン展に出品。写実表現を生涯追求し、一水会で活躍するが、1986 年に退会。当社の依頼による「椿絵」を継続して制作した。

保立葉菜（1983～）《椿》紙に木版 1 点 * 2025 年椿絵カレンダー表紙原画

東京都生まれ。和光大学表現学部芸術学科卒業。個展、グループ展での作品発表のほか、装画、挿絵、絵本、パッケージなどに版画を制作。本の仕事に『黄金の村のゆず物語』（ポプラ社）、『まいにち中国語』（NHK 出版 2018 年度）、『藤吉じいとイノシシ』（理論社）、『大貧帳』（中央公論新社）『ちゃっかりかき』（大隈書店）など。新作絵本『おはなしはどこからきたの？』（BL 出版）など。